

老子 ロウシ 生没年不詳

中国、春秋戦国時代の楚(そ)の思想家。生没年不詳。道家の開祖。老子の伝記ははっきりしておらず、架空の人物ではないかと考えられることも多い。『史記』によれば、姓は李氏(りし)、名は耳(じ)、字は舛(たん)といい、楚の苦県(こけん：河南省鹿邑県)の人で、周の守蔵室(図書館)に仕えた役人であったという。周が衰えるのを見て隠遁(いんとん)を決意し、途中、函谷関(かんこくかん)の関守の尹喜(いんき)の求めに応じて記したのが、『老子(老子道德経)』とされる。

『史記』には、孔子が老子に会見して礼を問うたという記述もある。それによると、老子は孔子に「驕気(きょうき：高慢ちきな気位)と多欲と態色(たいしよく：もったいぶった態度)と淫志とを去れ」と助言し、孔子は老子を「龍のごとき」と称したという。

Great Books 04 老子(ろうじ)

中国、戦国時代の道家の経典。老子著。2巻、81章。道德経、老子道德経とも。

老子は、万物の根源たる「道(どう)」を思想の中心にすえた。「道」は、「大道廢れて仁義あり(『老子』18章)」とあるように、儒家が主張するような倫理・道徳的な道ではない。「道」は知性や感覚を超えた形而上の世界に存在し、言葉で定義することができないものであって、対象にとらえられないという意味で、「無」ということばでも表現される。老子が目指す「無為自然(むいしぜん)」とは、その「無」の道に従って、いっさいの作為を捨て自然のままに生きることであった。老子は、知識・学問・欲望・技術・道徳・法律などの作為は、社会に混乱と争いを招くと考えたのである。その意味で、他人と争わず世に逆らわない「柔弱謙下(じゅうじゃくけんげ)」の生き方は、調和のとれたより自然な生き方であり、「無為自然」に生きるための具体的な方法であったといえるだろう。無知・無欲・無為に徹し、低きに流れる水のように、自然な生き方を尊ぶことが、老子の理想としたところなのである。

莊子 ソウジ 生没年不詳

中国、戦国時代の宋の思想家。姓は莊、名は周、字(あざな)は子休(しきゅう)。『史記』によれば、莊子は宋の蒙(もう：河南省商邱県)の人であり、漆園(しつえん)の下級役人であったという。生没年は不明であるが、『史記』には梁の恵王・齊の宣王の時代の人とあり、『莊子』に詭弁学派の恵施(けいし)との交わりを述べた部分があることなどから、孟子と同時代の前370から前310年ごろの人と考えられる。

莊子に関する伝記は明らかではない。前述の『史記』には、楚の威王が莊子の賢なるを知って召したそうとしたときに、「いくら大切にされても生け贄になるのはごめんだ。たとえどぶの中でも遊んで暮らす方が満足で、死ぬまで誰にも仕えず、自分の志を發展させるのだ。」と言って断ったという記述がある。

Great Books 05 莊子(そうじ)

中国、戦国時代中期の道家の思想書。33篇。内編・外編・雑編の三部構成。内編7篇は莊子の自筆といわれ、それ以外は後人の筆によるものとされる。

老子の思想を継承発展させたのが莊子であり、そのため、道家の思想は老莊思想ともよばれる。とはいえ、両者の思想は必ずしも一致しているわけではない。莊子は、老子の「有は無から生ず」という考えを否定する。彼は、万物の根本にあるのは有でも無でもないとし、万物には是非・善悪・美醜・生死といった区別や対立はないとした。彼の根本思想である「万物斉同(ばんぶつせいどう)」とは、相対的な差別をこえ、すべてを受け入れて是認することである。

あらゆる対立や差異を超えて万物は「一」であることを理解し、無為自然の「道」の立場に立てば、束縛や苦悩からのがれて自由になることができると彼は言う。莊子にとっての「無為自然」とは、人為を捨てた上で、運命に身を任せることであった。それゆえ、生死の運命でさえそのままに受け入れて、何事にもこだわらぬ自由の境地に至った者を、彼は「至人」・「真人」と呼んだのである。

◆ *Great Books* 文献案内

(老子)

- 📖 老子(講談社学術文庫) / 金谷治(著)
講談社 1997年刊 283p <124.22/3> 資料番号 20930343
- 📖 老子(中公文庫) / 小川環樹(訳注)
中央公論社 1997年刊 187p <124.22/5> 資料番号 21546619
* 下記「世界の名著」を簡略化したもの。
- 📖 新釈漢文大系7 老子 莊子 上 / 阿部吉雄(ほか著)
明治書院 1966年刊 306p <082/14/7> 資料番号 12785531

(莊子)

- 📖 莊子 第1冊～第4冊(岩波文庫ワイド版) / 金谷治(訳注)
岩波書店 1994年刊 <124.25CC/1/1~4>
- 📖 新釈漢文大系8 莊子 下 / 遠藤哲夫, 市川安司(著)
明治書院 1967年刊 307~850p <082/14/8> 資料番号 12785549
- 📖 莊子 内編・外編・雑編(新訂中国古典選) / 福永光司(著)
朝日新聞社 1966~67年刊 <124.25/4/1~3>

◆ 理解を深めるために 参考文献案内

(老子)

- 📖 老子・莊子(講談社学術文庫) / 森三樹三郎(著)
講談社 1994年刊 468p <124.2/102> 資料番号 20720389
* 『人類の知的遺産』に収められていたものを文庫化したもの。解説がわかりやすい。老莊思想が禅や浄土宗などを通じて日本人に与えた影響を記す。
- 📖 新釈漢文大系88 史記8(列伝1) / 水沢利忠(著)
明治書院 1990年刊 431p <082/14/88> 資料番号 20215000
* 老子韓非列伝に老莊の伝記がある
- 📖 鑑賞中国の古典 第4巻 老子・莊子 / 野村茂夫(著)
角川書店 1988年刊 429p <928Y/6/4> 資料番号 20144853
- 📖 諸橋轍次著作集 第8巻 / 諸橋轍次(著)
大修館書店 1976年刊 606p <121.9/106/8> 資料番号 10202448
* 内容「掌中老子の講義」「莊子物語」
- 📖 中国の思想 第6巻 老子・列子 改訂増補 / 奥平卓(ほか訳)
徳間書店 1973年刊 308p <122.08/1/6> 資料番号 21302757
- 📖 世界の名著4 老子・莊子 / 小川環樹(編)
中央公論社 1968年刊 550p <080/5/4> 資料番号 12784229
- 📖 老子の新研究 / 木村英一(著)
創文社 1959年刊 633, 9, 25p <126.2/4> 資料番号 10207561
- 📖 道家の思想と其の展開 2版 / 津田左右吉(著)
岩波書店 1939年刊 732, 9p <126/4> 資料番号 10207504

(莊子)

- 📖 莊子(そうじ) = 超俗の境へ(講談社選書メチ工) / 蜂屋邦夫(著)
講談社 2002年刊 230p <124.25LL/6> 資料番号 21534904
- 📖 莊子(中公新書) / 福永光司(著)
中央公論新社 1964年刊 210p <124.25/7> 資料番号 21543376
* 著者の個人的な体験をもとに、莊子の思想を解き明かす。